



リーダーシップで社会を変える！

Community Organizing Work Shop

コミュニティ・オーガナイズング
ワークショップ

2018年

9月22日 23日

両日とも9:30~19:30

会場 龍谷大学深草キャンパス 22号館
京阪本線「深草」駅又は地下鉄烏丸線「くいな橋」駅 徒歩約5分

定員 42名

参加費 29,000円 (学割 先着3名 20,000円)

申込 「こくちーずpro」のサイトで
「コミュニティオーガナイズングワークショップ」
を検索してお申込みください。

申込期間 6/17 (日) ~ 8/17 (金)



リーダーシップは限られた人が持つ特別なものではありません。
「誰かが変えてくれる」という思いや、「スーパーヒーローを待つ」のではなく、一人一人がリーダーシップを発揮し、組織や社会を望む方向に変えていく。
コミュニティの力を最大限引き出し、目標達成に向けて、共に行動し、責任を引き受ける。
そんな、今の時代に必要なリーダーシップを培う2日間。

2008年、米国初の黒人大統領が誕生しました。普段投票に行かない若者、黒人、ラティーノ（中南米からの移民）といったマイノリティー層が投票に行ったことが一つの大きな勝因と言われていますが、その陰にはコミュニティ・オーガナイズングの手法を取り入れた選挙活動がありました。選挙参謀としてその戦略を立てたのが、ハーバード大学でオーガナイズングを教えるマーシャル・ガンツ博士です。オバマ大統領を誕生させたボランティアを育成したキャンペーンに「キャンプ・オバマ」というものがあります。選挙後にこのキャンプの内容を精緻にし、様々な社会課題へ取り組むことにも使えるようにしたのが「コミュニティ・オーガナイズング・ワークショップ」です。このワークショップでは、実際にオーガナイズング・キャンペーンを立ち上げながら、5つの基本的なリーダーシップを学びます。

ワークショップの内容

以下のセッションごとに講義とグループワークを繰り返しながら進みます。

1. 心を突き動かし行動へと導く語り方

人は心が動いた時に、行動を起こします。心を動かすには、リーダー自身の価値観が大切です。自分がなぜこの活動をしているか、なぜ活動が聞き手に関係するのか、なぜいま共にアクションを起こさなければならないのか。人々の心に共鳴するストーリー・テリングを学びます。

2. 信頼関係の構築方法

背景や性格が異なる多様な人々が集まる組織やコミュニティでは「信頼関係」がもっとも重要です。コーチング技術を用いて信頼関係を構築する手法を学びます。

3. チーム構成の方法

効果的な活動には機能的なチームが不可欠です。活動目的を共有し、運営ルールを作り、各人のリーダーとしての役割を決めるといった明確な構造のあるチーム作りの方法を学びます。

4. 戦略作りの手法

人々が結束して作った力を戦略的に使わなければ変革は起きません。達成したい目標、関係者の持つ資源と力の分析、変化の理論、作戦立案などの戦略の作り方を実践的に学びます。

5. アクション

戦略を展開するために、測定可能で積極性のある、効果的なアクションを考え、実行します。

講師



室田信一（Shinichi Murota）
・NPO法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン代表理事
・首都大学東京人文社会学部准教授

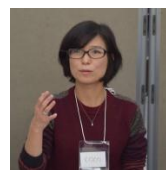
松澤桂子（Katsurako Matsuzawa）
NPO法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン副代表理事



参加者の声



所属も価値観も違う異質な人たちとのゴール設定や戦略を練る協働作業は、話し合いの何がどう大切で、話し合いのプロセスをどう共にするのか、あるいは評価するのか、そのポイントが少し掴めたように思います。



理論を頭で考えて整理するのではなく、理論を体で覚えていく感覚が、一番新鮮でした。どうしても、研修参加になると、理論とワークが切り離されている感覚がありましたが、今回は流れがあり、完結していることで、より深く学ぶことができました。



他の参加者のストーリーを聴き、相手の価値観や原動力に触れることで、自分の心が動かされるのを強く感じました。それは参加者一人ひとりが限られた時間や条件の中で、自分自身の価値観と向き合い、それぞれが絞り出したストーリーに共感し合えたからだと思います。

主催（CO Workshop @京都 実行委員会）

荒川隆太郎、金田喜弘（佛教大学）、西木奈央（京都府社協）、篠原幸子（NPO法人場とつながりラボhome's vi）、武田知記（京都府社協）、竹之下惟基（ダイバーシティズン）、土田恭仁子（宇治市社協）、中寫聡、西田奈都代（NPO法人場とつながりラボhome's vi）、肥後祐亮（グローバル人材開発センター）、深田雄志（日本患者学会）、南本広大（サセックス大学）、山口浩次（大津市社協）、山下比佐暢（京都市総合政策室）、山本香織（堺市社協）、脇坂博史（元大阪市社協）

今後のワークショップ開催や、学びを深め合う場を創るためのサポーターを募集しています（1口1,000円）。ご協力いただける方は、実行委員会メンバーまでご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。